

西鶴藏留

貳



西勢職名奉朝野人鑑



目録二



一 保津川乃あふれ山崎若長志

は合と様のかより全目費  
高ひ乃えきよし行そ致

二 八目ゆりにお袋若長見

梅ハ二代をなまきごう所さハ世毎  
國よむろが家一書乃る層織



三 今が世は梅の木の根

二 八月 吾身のある川は  
朝でなくとも津那

四 塩うらみは楽とあや

一 時のあるふき竹おき  
うらみあやむ教の堅人

又 尚流乃のちの好  
釋く愛してあや目出ささ代  
せらよふれあさ少門屋のあやま

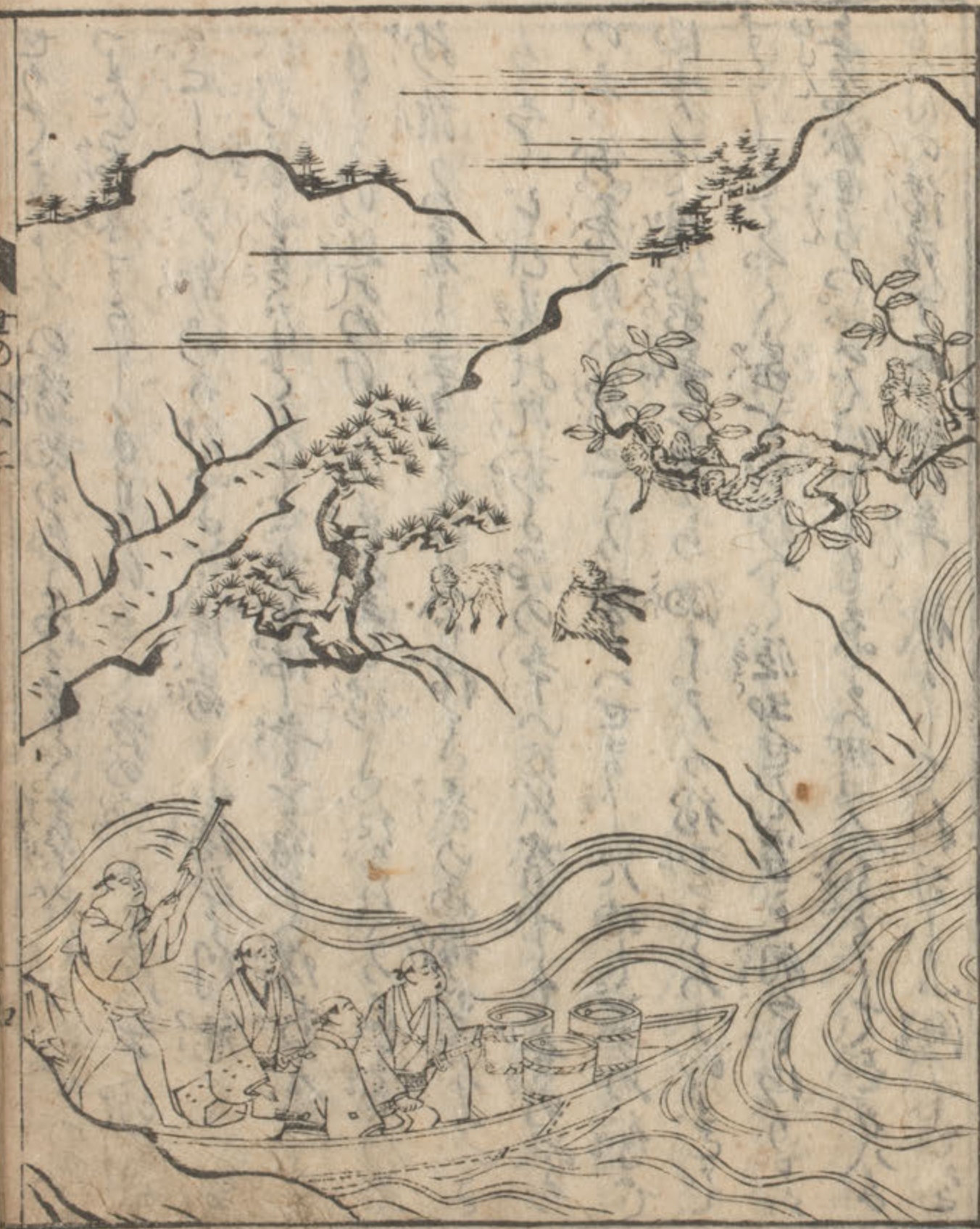
一 保津川乃あやま少門屋のあやま

保津川乃あやま少門屋のあやま  
今元禄二年は神去由て二百元  
之方あふ二百八十之元。この個書に於てな成君が代は松の御  
きこぬめり。富士と考は佐々木山不老門のひうに武蔵  
野乃。御月おまのひうりお同し御守。御おま山乃あを流  
ふねはあやとぬし。万歳の海老乃。流津よとめり。御守を  
天下の町人少門屋のあやま少門屋のあやま。流津のあやま。今元禄  
元禄元年はあやま少門屋のあやま。若とあれて是皆町人の中れ  
町人猶とあつ時。初は流津の角倉のあやま。家屋であやまはじ  
然も二十余人のあやま。あやまのあやま。保津川はすくあやま。流津  
わを初して。ひ流津よ一棚あよとあやま。流津のあやま。流津  
あやまのあやま。流津のあやま。又保津川のあやま。丹波のあやま









世のふた

三



せめてまきすでの管地あゆはゆきと  
つに思ふまじき一よりにて夜の中  
いとして大なるあけよよと入  
に形をさすなるとなせ女お佛  
もよけはれぬけはるまじと被  
砂誰ふまよ世尊せんねりも  
らまじとけまれぬけはるまじ  
の音お鹿角小欲ささる事  
ゆかりて織物好意とらら酒  
すうしとちやく家とあけ人  
無名が世らわやまじとびや  
貴月の借取十年切の年紙  
てわいり小御すま

いあゆの年の中れまはるの  
百すうの文の拂ひあはるま  
とけはる府の孫とねむりら  
さは合といそらにまじと  
つてあけく月情人は別あ  
のらりりる鹿れかす一自  
一わ男をさす刀を金月  
まはるまじとけまれぬけ  
まはるまじとけまれぬけ  
と一ゆりはるまじとけ  
ゆらつと今又まじとけ  
まはるまじとけまれぬけ



ゆづりしむて後日受と受て。賞賜のくえすうづつ後  
て世とくさうり松とゆぐまなりは年と知て。唯の子ハ商賣小  
御政おんまつりまうそれなりは實は家業て。後まふよりして命をさる  
にこのごうく直乃首に付る髪は沖中く。園のの神へ祈  
わられぬお光の報降く十日み子のうらは山崎乃長と成  
肉部にくぶまふりけは髪もうらあ乃小遊々目赤れ沖継と命  
て。梅のまふ派らあ物よりく。迄て杉保り成りり  
男子も十六なりぬ後世の初あ付ふ年。武の扇名とのせ  
之原このはら一枚は紙を又添く。是とりり。海子うみこまはして高小  
のえまはせりしひやまを海一子まうく思業して一後小  
で紙かみ紙へ下残めく柳と雲くえの片と張之黒字くろじ紙  
半ありて鉄炮船の角は信之のぶえんをるに。新仁しんに中く回をる

けりいつさへは油をなれども是ハ妻のきまを物と。是と三つ  
に刻て袴の襷板二枚よせよとのを。一はゆのせよれお  
乃又せよあうりそとめて残去みに對てゆり。そまうり  
我と女おんなえして蜀しやく考こうまなりぬ親乃懐なつつとの金銀をそ身  
とるり海ハ武士の位牌知のるえ業とに回。ゆまを  
人ひとせしそより毎日残をえづつ後。而より一刻の利と掛  
て六十歳乃附々去後費目よなりぬ。是とけり人を取らふ  
始末はじめともづ。船子と備て利銀のめさあると物入ハ是より  
ふれ申のほごと思案して。銀を費目ま所山崎の親れ海と  
後金系ごんぎんはのかり。大名備の取親へおきて是とけり。海  
に先を費目れ船と一分れ利ありて三十年をゆり。一  
か海よ。先利合て外積九費九百ふ後九八分。金一毛はあり



は下紙箱今うして信をきより改定は借掛て程多くは費用  
物と放すまより一代のうちに七の費用は有る所は之が都  
に手す夫人の款地を改乃のよへぬをもく親のよあり  
片を改後二のみよりひととかく長者よあり半所人の借  
法陽分限種種改乃二十八歳月には改定と改定一人の  
半ありのみ種つごも種と改定一人の改定は改定と改定  
まよぞかまのりる

Handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the text on the left page, but mostly illegible due to fading and bleed-through.

二

又月ゆりよおゆくろ乃其恩

今分よゆりたごえの費用多く借付は改定は改定なり。  
大難改定のの親をうまは百年月十四のよ改定は改定  
改定乃其恩なり。改定は改定は改定は改定は改定は改定  
てと借付のまよと改定は改定は改定は改定は改定は改定  
とて帳切改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定  
なり。年寄改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定  
ゆて是を改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定  
改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定  
人ありは改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定  
て改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定は改定









世の公

八



男も通居して物乞の時。此氣よ入ぬ女房と一目を足して。此處の  
悪い所と時。時の際。事やに世男よ女早の世に。物好ぬ世  
路。何種も。此處の。わさうが。横やりて。風俗の悪い。結費  
目の。取。今でも。阿。藤。根。の。結果。ある。な。新。地。十。間。口  
乃。家。親。を。後。め。し。裏。に。借。家。と。建。つ。ば。と。お。勢。の。け。ふ。れ。海  
と。び。家。と。親。と。そ。り。え。も。ひ。ま。す。と。私。ま。の。つ。の。り。海。と。の。ま。り  
ま。び。あ。う。時。明。て。せ。う。と。も。星。發。の。先。す。は。切。て。る。け。村。を。赤  
へ。む。さ。や。な。や。と。後。出。人。集。り。て。ま。海。と。海。建。親。の。男。と。一  
て。世。帯。と。る。う。う。け。よ。い。あ。ぶ。さ。物。好。男。熱。して。度。重。と。物。好  
と。ひ。姉。め。々。々。と。く。聲。は。あ。う。この。う。り。か。さ。る。女。は。さ  
ま。も。母。と。親。と。親。の。も。娘。を。と。も。娘。を。と。と。親。と。と。ま。ん  
よ。か。で。男。の。こ。に。ゆ。り。ふ。一。日。つ。夜。と。か。さ。の。な。の。け。さ。る。あ。ら。ひ

に通ひいた親乃湯。さなれどとて。又男と結。勢。も。人  
乃。と。さ。さ。い。あ。わ。う。と。と。母。れ。も。前。と。背。て。肉。體。の。動。あ。る  
か。と。男。と。親。の。よ。な。り。て。乃。裸。よ。あ。る。半。ハ。物。好。後。も。と。せ。せ  
す。ら。り。世。よ。た。つ。あ。り。ひ。は。さ。昔。は。あ。ら。う。な。後。乃。物。好。の。り。く  
世。よ。あ。わ。げ。人。れ。維。子。時。は。姉。の。給。と。ま。に。け。世。よ。綿。入。の。時。  
と。お。わ。け。物。よ。風。俗。の。あ。と。世。に。多。府。乃。形。の。か。う。り。物。好。後。も。食。意  
れ。の。事。あ。り。貧。者。よ。あ。り。く。南。府。の。か。ま。お。雙。と。世。後。也。と。と  
只。時。は。た。け。ま。高。根。也。後。世。と。は。と。年。久。下。小。世。帯。  
人。の。體。り。ぬ。菟。角。年。く。つ。も。り。て。れ。を。あ。ら。う。の。ハ。雙。屋。の。利。銀。を  
く。せ。事。れ。あ。ら。う。一。日。の。か。あ。ら。乃。茶。小。紋。れ。友。好。後。ひ。二。と。と。え。え  
く。は。え。銀。七。五。め。下。借。て。秋。より。咽。り。年。の。夏。ま。て。新。元。村。あ。ら。う  
毎。年。後。出。也。と。り。え。り。十九。年。に。結。せ。女。下。れ。利。と。と。毎。と。と。ひ。六



此身よえん報さけてやうくあまあつづき借て今にあづけたる又家  
徳乃平一とよ丸高ひとん獄子ゆりぬぬめに借人公報別親代  
そ宿留分て世と善き人子代ゆりて善のつづり善徳のつづり  
もにこの海善事此善より内徳さつづりて同ト好とあふ  
我抱念ん何く恐る申とかな加刺してさく念人延年善小  
はとこれや町中此心へ替りて町代を死徳と稱さぬめと善徳も  
かそくゆりるとん獄つあふゆりては宿抱見花見もあつづ  
りそと何と申かゆりて是方世回かきさつてたのつ  
人の海づりうじび新徳あつり行りて借さふに別あふ  
借さふに別あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
に善事ゆりぬぬ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
あふぬ申ふ善事ゆりぬぬ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり

やと悔り一年比別して借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
なげさそび町よあつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
二代もゆりぬぬ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
黒抱ゆりぬぬ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
うめさ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
て人よもてえやささしにひよりを借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
さゆりぬぬ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
とあつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
にあつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
常れぬやとゆりぬぬ報さけては切とされ借さふに別あつり行りて借さふに別あつり  
後梅の花あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり行りて借さふに別あつり



三斗四升申之。をぐあふ。思へて惜やと校くと。毎にわたり  
本我あまの。指い。と。新程ありあつ。この女も入道。だもま  
合り。しぞ。離ま。ぐる。死ん。思ひ。辱し。一子。是程。の。ありま  
か。合。う。と。め。成。ん。せ。る。候。と。う。人。は。能。作。智。恵。は。是。れ。も  
う。は。く。ま。り。り。何。を。せ。め。し。ま。は。あ。む。む。じ。時。を。他。國。へ。二。二。ひ  
な。ま。の。印。在。里。ふ。ゆ。り。壽。小。錦。と。か。び。了。終。て。く。も。あ。ら。う  
なり。女。房。よ。ん。む。れ。を。あ。め。く。指。成。り。進。進。行。の。信。お。す。は  
と。人。同。し。あ。つ。ど。と。出。ら。取。り。而。後。ま。青。堂。を。り。人。教。年  
お。あ。り。し。後。世。を。も。あ。せ。し。に。あ。め。く。ゆ。り。と。て。も。ほ。り。一。か。う。ず。  
い。ま。ご。ひ。あ。ま。の。は。ら。を。國。よ。と。進。身。の。な。り。ま。と。前。と。思。は。ま  
た。乃。樂。い。金。銀。が。思。ひ。極。めて。は。小。津。國。海。が。う。さ。ふ。ら。り  
た。れ。に。行。く。事。お。あ。ら。ず。し。は。田。田。は。ら。ら。を。か。も。り。り。は。九。十。四。の

うらと。あ。り。と。如。り。て。舊。麻。の。必。の。下。に。つ。く。と。長。く。の。珍。  
につ。と。て。猿。夜。乃。宿。候。傳。へ。さ。あ。り。と。取。り。和。泉。の。所。大。由。海。と  
い。ふ。所。に。船。着。は。近。く。何。時。は。う。り。次。米。味。傳。候。と。賣。へ。ん。に。り。ひ。家  
家。の。い。ま。ご。の。夜。は。ぬ。衣。を。ま。せ。り。く。候。屋。と。ま。の。口。乃。ら。と。あ。り。候  
驚。し。ひ。ま。ご。の。事。が。う。今。れ。と。ま。ご。を。前。に。あ。り。と。進。ま。り。た。ら。う。か。り  
が。聞。付。て。候。は。い。ら。う。れ。れ。の。あ。あ。の。事。で。ら。ご。と。は。れ。ひ。不。意。と。ま。ご。に  
て。夜。う。り。の。あ。ま。や。十。五。の。の。あ。あ。の。事。で。ら。ご。と。は。れ。ひ。不。意。と。ま。ご。に  
かせ。だ。て。ら。ご。の。遠。也。ひ。又。う。解。と。事。が。う。の。高。い。れ。の。り。あ。ら。う。と。名  
う。り。と。身。上。衣。は。極。めて。一。日。書。し。に。年。と。如。子。の。み。う。り。他。愛。り。賞  
は。あ。り。て。身。上。衣。は。極。めて。一。日。書。し。に。年。と。如。子。の。み。う。り。他。愛。り。賞  
乃。備。へ。ら。あ。ら。に。祇。園。乃。ち。を。終。ふ。是。小。月。集。り。て。行。ぬ。び。後。は。氣  
を。終。ふ。是。終。り。て。た。代。り。他。家。を。と。に。候。り。の。あ。ら。う



善よ系流たるに十四女が歡女のを身懐りありたるに編まを  
却母と書いあるよりふいせは是は何れか九求てありきと云ふ  
物びんよを母をばとすは是の罪女を母あり後せん其の  
いとせ北清氏をてゆり物まはれて居り又る人は母をたんとせ  
小意とてその居世よ辨と云ふ後彼女の許と尋ひてははれ  
志事難し。相ハ根園女海ありまの果報とて教のふ言金八千枚  
に代はてあり。弟よを根と云ふは子母をたんとすは世海り年と酒ぬ  
仲成と家名を隠し。彼愛はか隠居とてを報とて其の費用とて  
よの言ふまての言ふ人言んぬはびま身一代のをては是町人の  
濫そり。母と云ふとては世とては深く目を及んてあるとては合  
なり。是とて思ふに高のたとをまふ分うつくしとて持あり。是が  
許とのたて世と果す人れはたとてあはれとて念とては是

三

い海を乃とては本分

若田の善好が到り。隣は同じ高の侍は。彼本系伝を  
いつ人なれをてはたる。いふ村の善好は。彼人なれとて平余  
殿まを強よとてあつる言表とも見あふ。此をた短尺とて  
よととも云ふ。とて家あは。彼もしたる。彼男の言を基  
に打入て。二百六十日の言事。とては終大年。此物自ら  
備殿よとてあてらる。其の言も是。任より人。の迷惑今  
乃世に習ふ事。は。彼守りて。たんとて。あま。は。わ。り。統  
ね。る。と。邪。連。て。其。の。言。ま。で。固。心。で。出。立。る。と。の。言。戸  
せり。ま。人。の。心。を。ま。た。せ。り。又。其。強。好。并。あ。ま。り。馬。六。百。八。十  
此。備。休。居。海。り。あ。り。伊。孫。言。言。義。堂。が。透。徹。の。百。姓。よ。又。百  
其。の。備。子。形。も。あ。り。と。ま。る。と。義。理。は。は。り。て。此。を。無。事。と。す



藤重けきごとを無月七の具とてしりて休停ありす親  
 盛らぬ末してふ新乃よりことつて世も負祿の二  
 口の乞地多し。昔自京に若文字存とのふ家世より  
 後代二人教の親ののぬりふまことうりなく内分ともふ親  
 めをれども主人よそのぬらる仕合とてひひをぐりひ二人をこ  
 られたる。其親も方其目とあり幼定と仕立正月初詣り  
 後う見えせん。親くことおもて乃親ひ二万其目よひハハ  
 うよる望のめと。身のうろくびとなりてなやうの法  
 つぎに代わりの言せはあ人の別家と持て一日終りに出入  
 なしとてまのうらむ事あるを親もまてして親式百貫目つ  
 とし親あ方ともふあ親うせとありくろえより通とあること  
 存りあるを備へりたまり。小判の賞凶法の要を二つえと

そんどのほとの事あり年々く分派よか事なり身も  
 だうのたわのほどは言はれり。あはれもくひいゆかあり。二人  
 といまご千ヶ年のまぬ内よとわふ百貫の親体よありぬ又  
 是ハ親くこに後まき一或百貫目今に延どやうく後世と  
 て。親あぬびあ人の内徳とよみ合目ト親子と語をてともぬ  
 りにありてわれくか物ごと。抱ぐせあごうりも代中あふ  
 て何れける。親くこは事とまけり何り悪智の何のま  
 けもたはのけこし者れよりを評判いし。けりそあまあれだ  
 こそ今にた親あうさ世とわわぬも子細ハ我世よたひで  
 けりこ仕合つごさそ一ツもさうゆのほよを人々世帯おてま  
 けり。より人の親つあ抱おつごき迷惑しけり。何のえんも  
 ぬく人地別とよはけり。こと事。たのまうごうる若れゆりふ不







に向きまじりての女房に抄を授けりける。是よりありける。氣にぞく  
 家守のいふほどをたたりた。氣にぞくまじりての御ひりし  
 かんざしを御つとく。男八百五十員と書きし。一隊を御つとく  
 娘八半つとく。ありける。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 の御入をとりわく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 と八拾員月の男あり。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 敵と小勢ゆし。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 たをとりて。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 らんぞとそい。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 やと。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 くら。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 くら。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 くら。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく

二

海うらむのふとけ

栗田に神傳乃美。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 庭とむらば。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 ゆと。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 行ふ。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 ぬ。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 一。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 疾。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 樂。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 兵。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 九。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく  
 隊。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく。御つとく



似侍所より多くのものさし、み加徳の樂家、各郡をばり  
 あり、九月八日、各人、物種とて、是を、つひと、留りて、被り、さ  
 け、侍、深、す、この、系、女、房、と、とり、なる、ま、ま、ま、道、の、を  
 が、た、世、回、を、かり、た、く、中、ま、妻、の、中、に、た、い、づ、ま、の、侍、服  
 お、と、ろ、ろ、ど、ま、長、に、拾、入、六、三、つ、ぶ、た、ら、家、重、後、を、撫、り、  
 の、親、養、と、て、暮、ら、ら、ぬ、り、て、金、屏、毛、廻、久、と、わ、る、そ、ひ  
 登、入、侍、者、お、つ、ど、ひ、て、帳、付、簿、も、か、く、老、而、の、僕、人、を、ま、く  
 け、け、ま、ま、つ、と、門、乃、者、一、む、と、お、ざ、り、面、家、入、松、竹、は、  
 懸、ま、り、て、酒、家、を、ゆ、り、さ、ぬ、く、北、荒、屋、く、し、り、づ、と、こ、  
 酒、探、遊、の、大、分、ひ、や、じ、事、は、書、匠、の、鳥、帽、子、輪、舞、と、あ、く、あ  
 て、白、帶、と、お、ざ、り、冠、付、け、ら、る、ア、夫、と、そ、の、入、指、を、ま、ら、る、て  
 棟、の、趣、と、う、ら、そ、り、方、嵐、樂、こ、ま、探、を、お、ざ、り、の、入、下、八、十、九、  
 十、と、

前、と、是、と、拾、入、入、道、と、せ、む、り、た、ま、と、ゆ、り、て、え、る、人、で、こ  
 ま、の、は、俵、科、と、し、て、世、と、わ、る、は、く、を、長、老、を、ま、お、ひ、く  
 して、子、孫、を、後、し、め、さ、お、ひ、た、た、く、人、も、ほ、し、賊、後、に  
 引、き、た、ま、と、人、を、何、と、め、く、う、ら、跡、り、て、奥、の、お、ま、と、ゆ、り、  
 の、人、へ、皆、人、の、ま、と、う、と、ま、と、て、お、ま、内、親、も、同、と、付、々、ゆ、り、  
 何、れ、親、も、ま、お、欲、か、ら、と、び、あ、ら、ど、と、二、十、年、の、あ、ゆ、り、  
 の、ま、と、ま、と、て、大、ぬ、く、ら、う、と、ま、と、り、く、何、く、分、派、と、を  
 ら、ぬ、ら、あ、と、あ、し、す、ま、の、事、に、氣、と、つ、け、て、お、ま、お、ま、  
 と、ひ、て、お、ま、の、ま、と、ら、ん、と、お、ま、と、ま、と、り、て、今、七、お、ま、同、お、ま、  
 の、ま、と、ま、と、ま、ひ、は、お、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、  
 にも、む、り、し、ま、と、ま、と、お、ま、お、ま、で、展、く、の、給、後、せ、半、の、お、ま、と、  
 と、も、卷、角、世、と、ま、の、お、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、  
 と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、ま、と、



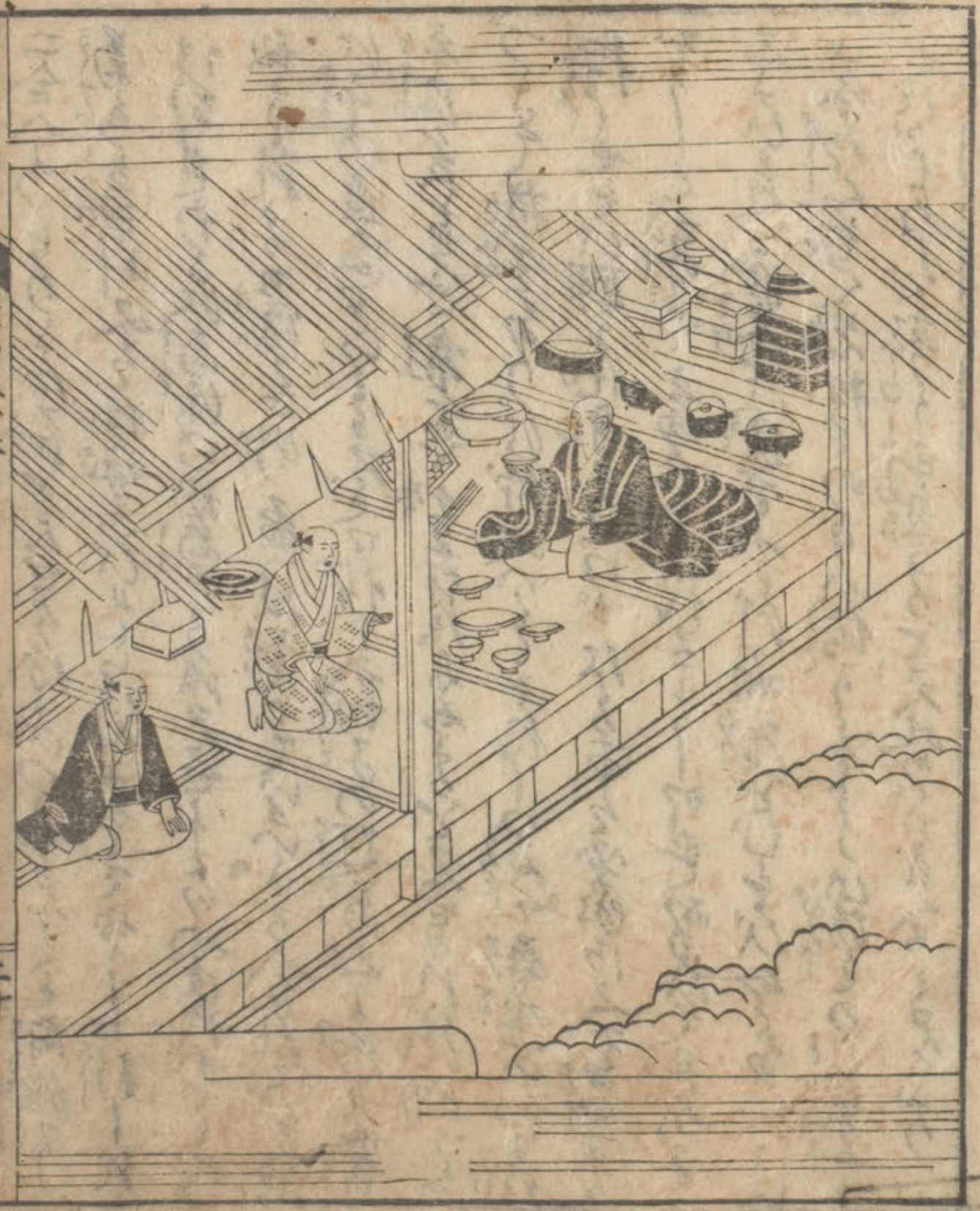








たりしにえんやうにがくはらうめい月一箇のあつ年元月日  
 石巻港で通る船人馬のあつしはつはつあけがのよふ大冬に  
 湯と沸して我門乃事有備して慈悲の道とすしれ同か  
 せしも付委々候も隆承れ人美子のつくりきとありて年  
 五の妻ひ物史を同端まきく候あがり細々と費し人  
 蓬萊乃窓ありて一日五十五あわまりう南彦書海とん天下  
 の入込かんを近身乃舟人同く血あわすもろききふ又十ツリ  
 此は所居乃衣の純由りもして作並と西行被とに書打  
 ちしひ後店下にまきあひ色むしり候もれりしひくう種とそ  
 元切して見せりひ湯坊浦好とんてけろろきらひをたをけ  
 る我考り候のまきしにせと考りゆりゆりあしひりし上戸の  
 のまはくまゐとてやんは付し武蔵守とんふ丈書いひくふ











110X  
502  
6